研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-169		20-074	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Trends in US Alcohol Consumption Frequency During the First Wave of the SARS-CoV-2 Pandemic
SARS-CoV-2 パンデミック第一波における米国でのアルコール摂取頻度の推移

執筆者

McKetta S, Morrison CN, Keyes KM.

掲載誌

Alcohol Clin Exp Res. 2021 Apr;45(4):773-783. doi: 10.1111/acer.14575.

キーワード	PMID
アルコール、SARS-CoV-2、トレンド	33587290

要　旨

背景：
COVID-19 による健康負荷やアルコール政策の違いが、米国の州間のアルコールの摂取傾向の違いに関与する可能性があり、居住地の州別に飲酒量の傾向を評価した。

方法：
全国規模の縦断調査 Understanding America Study の自己申告データを使用し、パンデミック第一波（3 月 10 日～6 月 8 日）における調査時点での過去 7 日間の飲酒日数を計 5 回調べた（解析に用いた人数 6,172 例、延べ人数 28,059 例）。州の規制は COVID-19 の疾病負荷に応じて行われるため、調査日の COVID-19 の 1 日あたりの発生率が中央値以上（または未満）である州と COVID-19 の負荷時間との交互作用をモデル化した。対象者背景、個人/家族の COVID-19 負荷、精神症状、リスク回避について調整した。

結果：
飲酒日数は期間を通じて増加した（飲酒増加の発生率リスク比（IRR）＝1.003、95%CI 1.001、1.004）。COVID-19 負荷による傾向は不均一であった。COVID-19 負荷が低い州の住民（IRR = 1.005, 95% CI 1.003, 1.007）は、負荷が高い州の住民（IRR = 1.000, 95%CI 0.998, 1.002）より増加した。州間での飲酒日数の傾向は不均一であり地理的な集中はなかった。

結論：
COVID-19 パンデミックの最初数ヶ月間に飲酒日数が増加し、特に COVID-19 の負荷の低い州の住民で顕著であった。